

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 23 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20700625

研究課題名（和文） インタープリター向けの環境保全管理型リーダートレーニングの開発

研究課題名（英文） Leader training program of practical environmental conservation for interpreter.

研究代表者

朝廣 和夫 (ASAHIRO KAZUO)

九州大学・芸術工学研究院・准教授

研究者番号：30284582

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学・科学教育

キーワード：環境教育、環境保全、インタープリター、人材育成、ボランティア

1. 研究計画の概要

本研究は下記の 4 つの内容で構成している。

- 1) 国内のリーダー育成プログラムの傾向を整理。環境保全管理型プログラムの検討
- 2) 講座型リーダーシップトレーニング
- 3) 実践活動における実地トレーニング
- 4) 「環境保全活動リーダーのススメ」というハンドブックの執筆

2. 研究の進捗状況

- 1) 国内のリーダー育成プログラムの傾向を整理。環境保全管理型プログラムの検討

これは平成 20 年度に、野鳥の会本部、キープ協会、インタープリターネットワークの小林毅教授を訪ね、トレーニングの状況を把握した。それぞれ独自にトレーニングを実施しており、また相互の連携状況の把握ができた。しかしながら、程度の差はあるものの、独立したネットワークにより会員と修了生を囲い込み、フォローアップしていることが確認できた。より閉鎖度の高い団体は、トレーニングへの参加者不足に悩み、一方で、オープンなネットワークは、フォローアップ不足のある傾向が確認された。併せて各団体より諸文献の収集も実施した。

また、平成 21 年度に CVA(豪国環境保全ボランティアトラスト)を訪ね、トレーニング、組織運営の状況についてヒアリングを行い、また、日帰りのボランティアの現場にも同行した。CVA のトレーニングは、豪国が標準化している基準に基づきサービスを提供しており、良くも悪くもスタンダードが確立されていた。また、広大な国土と豊かな自然を生かした、エコツーリズムタイプの

活動により、行政からの委託事業を取りながらサービスの提供拡大を進めている。

2) 講座型リーダーシップトレーニング

平成 21 年度に、岐阜県立森林文化アカデミーで、中部のインタープリターを対象に、3泊4日の実践型環境保全プログラムを実施し、データを取得した。プログラムは BTCV のリーダーシップトレーニングを修正したもので、Active learning を取り入れながら講座を進め、また、1日は散策路づくりの現場実習を取り入れた。最後にワークショップとアンケート調査を実施したところ、インタープリターにとっても、本プログラムの有効性があることが確認できた。特にリスクアセスメントや道具の使い方の説明など、実践活動に必要とされるトレーニングプログラムについては、インタープリターにとって、有益である傾向が得られた。その他のリーダーシッププログラムなどについては、重なる部分もあるようである。なお、職能として確立しているインタープリターに対し、日本において実践型ボランティアリーダーは発展途上段階にあり、何故にインタープリターが実践型活動のリーダーシップを身につけるべきなのかという観点については、疑問が呈された。このような実践活動がインタープリテーションについて効果的であるという認識が、未だ十分に理解されていない状況が把握できた。なお、米国調査、実地トレーニングは諸事情により平成 23 年度に持ち越している状況である。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている

これまでのところ、講座型トレーニングのプログラムおよび検証を実施した段階である。予定としては、平成 22 年の 8 月頃に平成 21 年 12 月に岐阜県立森林文化アカデミーで実施した講座型トレーニングを継続し、実践活動型実地トレーニングを同地で行い、12 月に米国の Conservation Corps の調査を実施する予定であった。しかしながら、下記の 2 つの理由でスケジュールを遅らせており、平成 22 年度予算の一部は、平成 23 年度に繰り越しを実施した。

理由 1. 実地活動を行う予定だった研究協力者の事情

研究計画では、平成 22 年度に実践型の講座を行う予定であったが、平成 21 年 12 月の講座後、研究協力者が海外で感染した菌によるホメオパシー治療による入院の治療に入られ、2010 年 5 月に山梨県の帝京科学大学に転出されたとの連絡をいただいた。計画上の講座は、岐阜で継続して執り行う予定であったが、本事情により岐阜での開催を再考する必要が生じた。現在のところ、東京で実践型の講座を短期で実施し、結果の取りまとめを行う予定である。

理由 2. 米国 Earth Coprs の視察時期の変更による事情

研究計画では、平成 22 年度に北米の Conservation Corps を訪問する予定にしていた。受け入れ先を探していた中、シアトルの EarthCorps の Executive Director である Steve Dubiel 氏と 2009 年の東京のシンポジウムで、2010 年の 12 月に訪問すると調整を行っていた。しかしながら、再度、2010 年 12 月訪米の調整を行ったところ、2011 年 6～8 月が好ましいという話になり、平成 23 年度に延期することとした。当初は責任者へのヒアリングのみを想定したが、初夏であれば、トレーニングの現場を視察でき、受講生へのヒアリングも可能となり、より、研究結果を充実させるためにも望ましいと判断したため。

今後、米国調査および実地検証、冊子に執筆が残されており、達成度は 60% という状況である。

4. 今後の研究の推進方策

最終年であることから、調査などは 9 月までに終了させ、10 月～2 月で執筆を集中的に実施する。

5. 代表的な研究成果

平成 22 年度に下記の学会で発表などを実施した。

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1) Kazuo Asahiro, BTCV Standards Leader Training Program for Environmental Conservation Volunteers in Japan, Journal of Landscape Architecture in Asia Volume5, October 2010, Japanese Institute of Landscape Architecture, Chinese Society of Landscape Architecture, Korean Institute of Landscape Architecture., 5, p118-123, 2010.10.

〔学会発表〕(計 2 件)

1) Kazuo Asahiro, BTCV Standards Leader Training Program for Environmental Conservation Volunteers in Japan, 第 12 回日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウム, 2010.10.30.

2) Kazuo Asahiro, The activities of practical leadership training for conservation volunteer and interpreter., 2nd International Conference of Urban Biodiversity and Design, 2010.05.19.